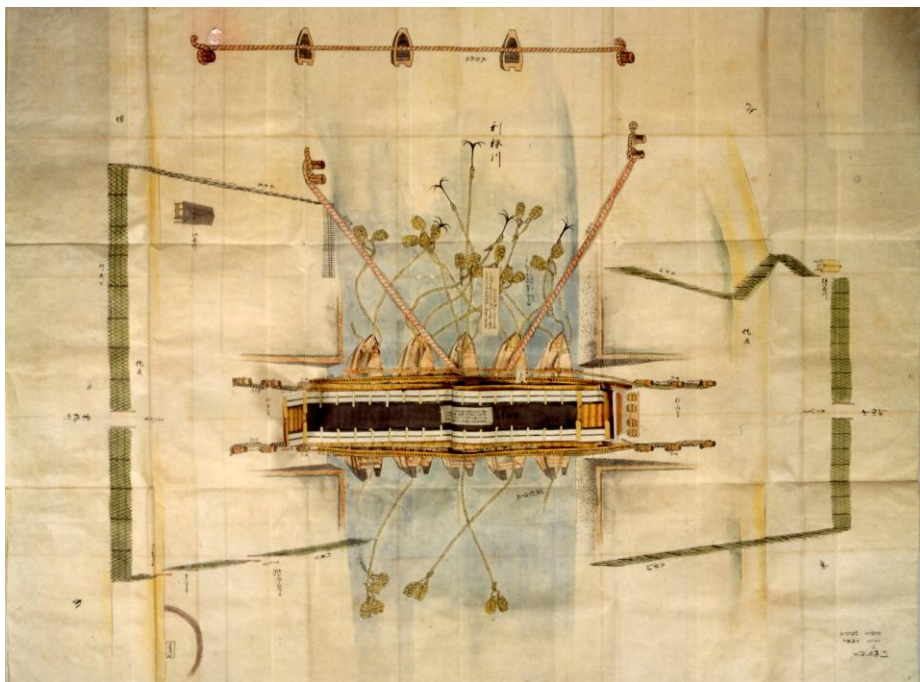


ちょうゆういしかわみんぶけもんじょ
「町有石川民部家文書」

松伏町指定有形文化財（古文書・典籍・書跡）
平成13年2月22日指定

石川民部家に伝えられた文書群の内、町が所有するもので、近世から近代に至る古文書、歴史資料など1,100点以上を数えます。

古文書群の中核をなすのは、12代将軍徳川家慶^{とくがわいえよし}の日光社参に関連した史料です。江戸時代、日光街道栗橋宿^{くりはし}（現久喜市栗橋）と中田宿^{なかた}（現古河市中田）の間を流れる利根川には橋がなく、将軍の日光社参があるときは、船を並べて臨時の船橋を架橋しました。天保14年^{てんぽう}（1843）の架橋では、石川民部が人足や資材の手配などで貢献しました。船橋の架橋過程が詳細に分かる史料群は土木史の観点からも貴重といえます。



房船渡絵図